

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成へ。

- 1 学ぶ力をつける……生徒の学ぶ意欲を向上させて確かな学力を身につける。
- 2 人間力をつける……知・徳・体のバランスのとれた人間性を育み、人間力をつける。
- 3 地域から信頼される学校をつくり、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
- 4 学校の組織力の向上と活性化

2 中期的目標

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成のために

1. 学ぶ力をつける

- (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ確かな学力を身につけるために、正課授業の集中度を高め、生徒の授業満足度が高い授業が行えるように全教員の授業力の向上を組織的に取り組む。
- (2) 大職員室を活用し、訪れた生徒が目的教科以外の教員の指導も受けやすい環境をつくる。
- (3) 3年間を見通した学習指導計画、進路指導計画を今一度構築し、生徒の学習意欲、進路意欲の向上を図り、生徒の第一希望の進路実現に繋げる。
- (4) 基礎的学力の強化 平成26年度から導入する朝学（総合基礎）の充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。また、1学期終了段階で各教科（特に英語・数学・国語）のやり直し補講等を行い、2学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。
- (5) 放課後講習の組織化と拡大
自習室を整備したことを踏まえ、放課後講習の組織化を進め放課後の学習機会を確保・拡大していく。
- (6) 土曜日講習や長期休業期間講習の実施。
- (7) (4)(5)(6)に加えて更なるカリキュラムの検証検討を鋭意行い、生徒の学力の更なる効果的な向上に資するためのカリキュラムを研究し、実施に向けて検討する。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の75%を更に向上させ今年度には80%にし、それを維持する。

2. 人間力をつける

- (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施する。
- (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切にする」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行き生徒相談機能を高める。
- (3) 正課授業や部活動その他の機会において地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
- (4) 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
- (5) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし更に有効有意な関係を構築する。
- (6) (5)の進展に合わせて、自治会活動の全・定連携をめざし、全定生徒の交流行事等を立案実施する。

※学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。
(進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5%上昇をめざす)

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

- (1) オール桜塚の体制でOB、地域の有志と連携した事業を展開する。
- (2) 多文化社会を実感・体験するため国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を促進する。
- (3) 豊中市役所をはじめとする公的機関、団体との連携をさらに充実させ、生徒の社会経験知の向上を図る。
- (4) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
- (5) 広報活動を充実させる。HPを更に見やすく、魅力的なものにし、更新を頻繁に行う。また、中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。

※学校教育自己診断において生徒の自己評価の低かった地域活動をさらに周知し、生徒の力に替え、地域の信頼の一層の獲得を図る。現在の70%を維持する。

4. グローバルリーダーの育成

- (1) 上記3を基本に国際社会で通用する人材を育成するため、地域の伝統や文化に対する理解はもとより、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。
- (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。その為に、海外語学研修、国際交流に努め生徒の国際的な視野を育むとともに、授業に言語活動を積極的に取り入れ、英検やTOEFL等の資格取得を進めることに取り組む。
- (3) グローバルリーダー育成の為により効果的なカリキュラムの研究を行い、「第二外国語」、「国際理解」「課題研究」等の導入も含めて検討する。

※今年度以降も英語圏への海外語学研修を継続して実施し、将来的にはアジア圏も視野に入れ海外研修の実施に向けて検討する。

5. 学校の組織力の向上と活性化

- (1) PDCAサイクルにより学校経営を確立し、組織力の向上を図り、学校運営における組織的な取り組みを更に進める。
 - ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
 - イ 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。
 - ウ 新カリキュラムを十分に検証する為に運営委員会や教育課程委員会等で検討し、状況によっては新しい委員会等を設置し改善する。
 - エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。

※内規等諸規定の整理と改善を行う。

※新カリキュラムのシラバスの更なる充実に努め、状況によっては新しい科目等を導入することも視野に入れて改善に努める

6. 不祥事発生の未然防止を図るために、一層の取り組みを進める。

- (1) 不祥事防止に関する校内研修を実施し、問題意識を共有する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総括】 前年度と同じ質問項目の総数 113 のうち 71 について肯定的評価が増加した。(保護者 23 のうち 13、生徒 39 のうち 17、教職員 51 のうち 41) 校長の学校経営計画を踏まえ、「教職員が学校全体の立場から意見交換を行い」(前年比+15.3%)、「教育活動全般にわたる評価を行って次年度の計画に生かす」(前年比+19.3) ことで組織的な学校運営がより一層機能してきていることによる。</p> <p>【学習指導等】 ・今年度は5月と11月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業参観や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来る」は前年比+5.1%となった。全教員が自教科と他教科の授業を見学し、見学対象の教員と授業について意見交換を行った。また授業アンケート結果を踏まえた教科・学年別の協議を行い、教科ごとに授業改善の方法について検討した。 ・ICT機器を活用しようとする教員が増えた結果「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」は前年比+9.9%となった。ICT機器のさらなる活用により授業力を高めるため活用に習熟している教員による研究授業を行った。12月には同窓会等の支援を受け、1・2年生の全教室に電子黒板を導入した。今後、ICTを取り入れた授業を全校的に展開していく。</p> <p>【生徒指導等】 ・今年度、携帯電話・スマートホン等の校内持ち込み制限を始めた。「学校生活について先生の指導には納得できる」の生徒回答は前年比-7.7%となったが、保護者回答は+7%となり、親子で評価が分かれた。休み時間に次の授業の準備をし、生徒同士の語らいが盛んになるなどの良い結果が表れており、持ち込み制限の導入は正しかったと考える。 ・昨年度来低い評価であり続けてきた「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は、教員の努力により前年比+8.1%となった。さらなる向上のために1月に職員研修を行った。</p> <p>【地域連携等】 ・昨年同様、豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流が評価された。肯定的評価は生徒 66.6%、保護者 85.9%、教職員 91.3%と安定的であった。今後は生徒が自ら進んで事業や交流に関わるようプログラムの実施に工夫を加えることで達成感や自尊感情を高めていくことが必要である。</p> <p>【学校運営】 ・校長のリーダーシップの発揮により教職員の質問項目51のうち41項目で前年比向上した。 ・「PDCAサイクルによる学校経営を推進している」が67.4%(前年比+17.4%)となった。教職員の学校経営計画への理解が進んだことによる。 ・服務についての職員研修をワークショップ形式で実施することにより、「教職員の服務規律への自覚が高い」は89.1%で、前年比+9.6%となった。100%を達成できていないことが課題である。</p>	<p>【第1回(7月2日)】 ○平成26年度学校経営計画について ・「朝学」の内容が生徒の学力を効果的に高めるものであってほしい。 ・教員相互の授業見学は良い仕組みなのでより一層すすめてほしい。 ・「人間力をつける」を「社会人基礎力」との関連で定義し生徒に提示してはいかかが。 ・グローバルリーダーの育成をめざした「第2外国語」や「国際理解」「課題研究」等の導入は将来の大学での学びにも通じる。桜塚高校の魅力がより増すこととなり望ましいと考える。頑張ってもらいたい。 ・海外語学研修の実施や留学生の積極的受入れ等国際交流を活発に行っていることを評価したい。外部に向けてもっと発信するべきである。 ・3年間を見通した進路指導計画はわかりやすく、生徒も自分の進路実現についてデザインすることが可能となろう。最近の大学生の傾向から目的意識が明確でない場合が見受けられる。高校段階でキャリアガイダンスをしっかりと行い、目的意識をはっきりとをもって進学するよう指導されたい。</p> <p>【第2回(12月3日)】 ○授業見学の感想を踏まえて ・電子黒板を使った授業はとても興味深かった。他の教科でも積極的に活用したいと考えているとのことなので応援したい。 ・電子黒板だけに依拠するのではなく、電子黒板の活用を含めた総合的な授業プロデュースを行うことで、生徒の学習意欲の喚起と授業理解の向上を図られたい。 ・生徒の参加を促す授業展開は好感が持てる。 ・映像等の著作権の取り扱いは適切に行われているようである。 ・ほぼ100%の教員が授業相互見学を実施したことを評価する。</p> <p>【第3回(2月12日)】 ○平成26年度自己診断結果を踏まえた学校評価について ・図書館の利用が少ない。インターネットによる調べ学習が一般的となった時代であるが、書物に当たり丁寧に調べることや読書に慣れ親しむことは重要である。生徒が活発に利用する図書館となるよう努めていただきたい。 ○平成27年度学校経営計画について ・専門コース(GSC,GSS)の設置によりさらなる飛躍をめざすことを評価する。なお、生徒の選考に際して、公正・公平に行い、結果に対して説明責任を果たすことのできるよう、選考の根拠を数値化しておくことが必要である。 ○その他 ・土曜授業の実施については生徒のためであることを理解する。土曜授業の取組みが継続して実施できるよう、教員の多忙化につながらないような休日代替等の配慮を確実に行ってほしい。 ・岡町商店街のアピールのために多数の生徒の皆さんに絵画を作成して頂いた。豊中市まちづくり協議会として感謝申し上げます。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 ぶ 力	(1) 授業力の向上 ア 授業改善のための諸施策を行う イ 総合基礎（朝学）の充実 ウ 土曜日講習及び長期休業期間の講習実施	ア 授業委員会を発展させて「授業力向上等検討委員会」を設置し、研究授業や教員相互の授業見学等の実施計画等を作り実施する。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。また、結果に基づき各教科等でも改善策等を協議する。 イ 学校をあげて組織的に取り組み、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。 ウ 組織として土曜日に各教科（特に国語・数学・英語）の講習を検討し実施する。 ・夏季や冬季の長期休業時にも講習を組織的に計画し実施する。	ア 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度5%向上（平成25年度75%） ・授業アンケートの1回目と2回目の比較において全項目での上昇 イ 英検・漢検等の資格取得者数と確認テスト等での向上 ウ 生徒アンケートを実施（満足度90%以上を維持） ・センター試験の各科目平均点上昇、受験率向上	ア 「授業力向上等検討委員会」を設置し、「授業力改善月間」を年2回設置し、教員相互の授業見学を実施。全教員が自教科及び他教科の相互見学を実施。授業満足度は74%であったが、同様な他の2項目は5%向上。(◎) ・授業改善の為の協議を学年、各教科で実施し、それぞれで改善策を考えた。今年度の1回目は昨年度の1回目に比し、9項目中8項目で上昇し2回目は横ばい。(◎) イ 英検・漢検資格取得者数は英検準2級以上は71名。漢検準2級以上は42名である。朝学の確認テスト等で学力の向上がみられた。(○) ウ 生徒アンケートの結果、満足度91%であった。(◎) ・センター試験の各科目平均点は昨年度に比して英教国は全て上昇しており、15科目中11科目で上昇している。受験率はほぼ同様である。(◎)
2 人 間 力	(1) 人間力をつける ア 「あいさつ運動」の推進及び地域貢献活動等への参画 イ 教育相談体制の充実 ウ 部活動の充実 エ 定時制との関係の充実	ア 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。また、様々な機会を捉えて地域貢献活動等に積極的に参加する。 イ 「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、生徒相談機能を高める。 ・きめ細かく丁寧でカウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。 ウ 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。 エ 教職員が協力することで同じ施設を共有する仲間意識や互いを思いやりあう意識を養っていく。 ・例えば、全定相互の授業見学や共同の消火訓練等の実施。また、自治会活動の全定連携も視野に入れ、全定生徒の交流行事等も検討する。	ア 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率5%向上（平成25年度70%） イ 学校教育自己診断結果における関連2項目での肯定率平均5%向上（平成25年度50%） ウ 学校教育自己診断関連項目75%以上（平成25年度74%） エ 教職員向け学校教育自己診断に定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答50%以上をめざす。（平成25年度46%）	ア 可能な限り毎朝登校時、下足ロッカーで生徒を迎え声掛けを行っている。自治会執行部の生徒達も自主的に毎朝「あいさつ運動」を展開してくれているが、学校教育自己診断結果における関連項目では、肯定率が3%減の67%であった。(△) イ 学校教育自己診断結果における関連2項目での肯定率平均53%であった。(○) ウ 部活動加入率は80%で、学校教育自己診断関連項目75%であった。(○) エ 教職員向け学校教育自己診断関連項目前年比2%向上し、肯定的回答48%であった。(○)
3 地 域 連 携 と グ ロ ー バ ル リ ー ダ ー の 育 成	(1) 多文化社会に生きるグローバルリーダーの育成のために ア 国際理解と人権に係る豊中市各機関との連携 イ 大学等との連携 ウ オール桜塚による支援 (2) グローバルリーダーの育成 (3) 広報活動の充実	(1) ア 多文化社会に生きる力を育成する為に、豊中市等との連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。 ・豊中市各部署、社会福祉協議会、国際交流協会等、豊中市各機関との連携事業を引続き推進する。 ・おかまち・まちづくり協議会、岡町・桜塚商業団体連合会との連携事業の継続 イ 大阪音楽大学との提携活動の継続発展 ・大阪大学、関西大学との連携活動の継続 ・キャリア教育と進路実現に繋がる新たな連携模索 ウ 生徒、OB、教員が一体となった地域連携を進める（例えば、枝垂れ桜の一般公開） (2) 国際交流を積極的に推進し、英語圏への語学研修を引続き実施し、加えてアジア圏への海外研修も検討し、可能ならば実施する。 ・国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める (3) HPで生徒の活動や地域連携事業の取り組みなどを公開していく。また、中学校訪問や学校説明会を開催して広報を積極的に行う。	(1) ア 生徒アンケート実施し満足度90%以上（平成25年度87%） ・学校教育自己診断における関連項目での肯定的回答75%以上（平成25年度71%） イ 生徒アンケート実施（満足度90%以上を維持） ウ 生徒アンケート実施し満足度75%以上（平成25年度71%） (2) 引続き海外語学研修等を実施し、アジア圏への海外研修も検討する。 ・英検やTOEFL等の資格取得を進める。 (3) HPを月に5回以上更新する。学校説明会参加者数等による。	(1) ア 生徒アンケートの満足度は92%であった(◎) ・学校教育自己診断関連項目にて、67%と前年度比4%減。(△) イ 各大学と連携を継続しつつ、生徒の教育活動への支援を頂いている。生徒アンケートの満足度は94%であった。(◎) ウ 枝垂れ桜の一般公開には約200名の地域や卒業生が来校され、大変盛況であった。生徒アンケートの満足度は94%であった。(◎) (2) 昨年度に引続き、年度末の3月にアメリカへの語学研修を実施し、アジアへの異文化海外研修も同じく3月に韓国へ行ったが、いずれの研修においても参加生徒は全員肯定的評価であった。(◎) ・11月に英検の「英語能力判定テスト」を全校生徒対象に実施した。1月には英検を校内実施し、7割の受検生徒が準2級以上を取得できた。(◎) (3) HPを平均して月6回以上更新を行うことができた。また、学校見学会や学校説明会参加者数は、前年度を上回った。(◎)
4 学 校 の 組 織 力 の 向 上 と 活 性 化	(1) PDCAサイクルによる学校経営の確立 ア 本校の課題に対する基本的な方向性を確立する イ 内規等の整理・改善 ウ 「新カリキュラムの研究」を行う エ 様々な分掌・委員会の活性化	ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。 イ 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。 ウ 新カリキュラムの更なる検証・研究に努め、グローバルリーダー育成の為に効果的なカリキュラムの研究を行い、例えば「第二外国語」、「国際理解」「課題研究」等の導入も含めて検討する。 エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。	ア 運営委員会のメンバーの学校経営計画実現に向けて寄与する度合いと教員向け学校教育自己診断関連項目の肯定率5%向上（平成25年度48%） イ 内規等の整理と改善をできるだけ進める。 ウ 新カリキュラムの検証・検討に努める。 エ 必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。	ア 運営委員会メンバーは真摯に学校経営計画実現に向けて尽力している。また、学校教育自己診断関連項目15%向上し、63%であった。(◎) イ 全ての内規の全面的な改善を行った。(◎) ウ 平成27年度入学生から、専門コース制（グローバルスタディコミュニケーションコース（GSC）とグローバルスタディサイエンスコース（GSS））を設置し、左記科目は勿論導入し、英語や理数系科目の強化を図る。(◎) エ 5分掌から4分掌への分掌の統廃合を行った。また、「コース制PT」、「授業力向上等検討委員会」を設置し活性化に努めた。(◎)